



第 18 号

誌名 : 平成武師道
発行元 : 平成武師道活学塾事務局
京都市下京区麩屋町四条下ル八文字町 341
総合打撃道 TEL : 075-361-1199

監修 : 山口 貴史 山下 希哉
編集 : 兵庫 義幸

～礼儀と節度を考える～

平成武師道

〈人間活動学〉

まもなく選挙が始まろうとしている。
しかし、盛り上がっているのは当事者とマスコミぐらいの感がある。
街頭演説では各党全てが口を揃えて「私達が日本を良く変えてみせます」と言っているが、結局は何も変わらないと思う。
私の党が私の党がと自分の主張と他党の悪口を言っている場合ではないのでは？
聞き苦しいし、はっきり言って醜い。
もっと日本を代表する公人達は美德を持って美しい日本作りを目指してもらいたい。
お互いの悪口はもう必要ない。
今こそ各党大同団結して一丸となり、まず日本が経済面や教育・文化面を強化して海外に負けないものを全員で作っていくべきだ。
また、我々国民は日本という国家、巨大な家に住んでいるというしっかりとした意識を持って、国民一人一人が強い気持ちで日本を良くしようと思わなければ何も変わらないのも事実だ。
戦後六十数年経ち、この国は物質面ではかなり豊かになったが、現在では精神面すなわち気持ちが弱くなった。
少くく景気が悪くなったからと言ってガタガタ騒ぐな。
江戸時代の大飢饉、戦時中の食料不足を考えてみる。それらの時代から較べれば平成の時代の何て幸せな事か。
政治家や官に頼る前に民で何が出来るかを考えてみることだ。
私には何も無いし、何もできない。
そう言って逃げるのは簡単だ。
美しい気持ちを持とう、美しい町にしよう、美しい国を作ろう。
政治家が専売特許のように連呼している台詞を、どうせ口先だけだと思って聞いている人が大半だろう。
だが、我々は何もしないで無理だと決め付けていいのだろうか。
まずは各個人の心を強く美しくする事からしてみようではないか。
美しい心って何？
そんな事もわからない大人が子供を育てている時代。卑しい気持ちに気付かないまま自分を正当化してしまう大人達。
いつの時代でもこのタイプはいただろう。
しかしそれではいけないと気付いた人もいたはずだ。
まずは自分レベルで何が出来る。
まずは自分の事はまずは自分から。
自分の心は自分が一番よく知っているはずだ。
弱い心を強くしよう。
そのためには学ぶ事だ。
我々はもう一度、大人子供関係無く、美德を学び直さなければならないのではないか。
最低限、人としてしなければならぬ事、してはいけない事、それらを学び直す事だ。
それから生活改善の行動を取る事が始まるのだ。
焦らず確実に一生勉強だ。



佐々木